

今週（3月7日から3月11日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み終盤であることから出合いレートは高水準で推移した。取り手の調達意欲が旺盛であり、先週に引き続きしっかりと地合いとなった。無担保コールO/Nは、邦銀を中心に▲0.020～▲0.001%のレンジでの出合いが続いた。

週初7日のO/N加重平均レートは▲0.007%。先週からの堅調な地合いを継ぎ、高いレート水準での出合いとなった。同じ水準での出合いが続く中、8日には国債買現先オペ（3/9-3/10・30,000億円）、9日には国債買現先オペ（3/10-3/16・40,000億円）が実施され、資金供給が行われた。これによりコールレートの押し下げが期待されたものの、ビッドサイドの底堅さから出合い水準に大きな変化は見られなかった。加重平均レートは概ね▲0.01%を上回って推移した。11日は3日積みにあたるため、一部取り上がりが警戒されたが、調達サイドの様子見姿勢からビッド水準は若干低下していた。ターム物に関しては、主に期内ショートタームでの引き合いが散見された。日銀当座預金残高は520兆円台後半から始まり、国債買現先オペの影響により、9日以降は530兆円台前半で推移した。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.085～▲0.075%出合いとなった。7日のTNは▲0.08～▲0.075%の出合い。8日は国債買現先オペ（3/9-3/10）が3兆円オファーされたものの、投資家の資金調達意欲は高く▲0.08～▲0.075%出合い。9日は国債買現先オペ（3/10-3/16）が4兆円オファーされた。今積み期をカバーする形で実施されたことで、ビッドサイドもやや厚くなる展開となり▲0.085～▲0.075%の出合いと小幅に低下した。10日はオペは実施されず、▲0.085～▲0.075%と横ばい圏で推移。11日も▲0.085～▲0.075%と横ばい圏で推移した。

SCについては、2y424～433、5y140～150、10y349～365、20y177～179、30y66～73、40y13～14 などカレント銘柄を中心にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、先週の堅調な地合いを引き継ぎ、全ゾーンで底堅く推移する展開となった。

8日に実施された短国買入オペは、前回と同額の5,000億円でオファーされ、無難な結果となった。

9日に実施された6M物の入札は、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、堅調に推移した。

11日に実施された3M物の入札は、小甘い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、10日、15日の発行集中日があり、電気機器・機械・石油等の複数業態で大型発行があった。週間総額は発行・償還共にほぼ同額となっており、市場残高は26兆円台半ばで推移している。発行レートについては、概ねマイナスで決着している。一部では、期間の長いものに対して若干目線を上げる動きもみられた。

また、11日にはCP等買入オペが予定通り5,000億円でオファーされた。応札額が前回から増加し(8,078億円→12,943億円)、按分レートは▲0.03%と前回から上昇、平均レートは▲0.027%と前回から若干低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/7 (月)	25,221.41	0.140	114.92	△ 0.007	△ 0.077	5,281,400
3/8 (火)	24,790.95	0.150	115.47	△ 0.007	△ 0.083	5,284,300
3/9 (水)	24,717.53	0.160	115.87	△ 0.007	△ 0.086	5,312,700
3/10 (木)	25,690.40	0.185	116.00	△ 0.008	△ 0.086	5,330,000
3/11 (金)	25,162.78	0.180	116.30	△ 0.010	△ 0.085	5,319,900

来週（3月14日から3月18日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/14 (月)					
3/15 (火)		流動性供給 5,000億円 3/16発行			米FOMC(1日目) 2月の米生産者物価指数
3/16 (水)	2月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 35,000億円 3/22発行			米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 1月の米企業在庫 2月の米小売売上高
3/17 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~) 1月の機械受注統計(内閣府 8:50) 10-12月期の資金循環統計速報(日銀 8:50)	TB3M 57,000億円 3/22発行			2月の米住宅着工件数 2月の米鉱工業生産・設備稼働率 2月のユーロ圏消費者物価指数改定値 英中銀MPC結果発表
3/18 (金)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 2月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 1月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30) 日銀総裁定例会見(15:30)				2月の米中古住宅販売

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/14 (月)	400	4,600	5,000	国債補完 CP買入	100 ▲ 400		▲ 300	4,700	源泉税揚げ TB3M発行▲57000償還43000
3/15 (火)	0	3,000	3,000				0	3,000	個人向け3・5・10Y発行▲3000 個人向け3・5Y償還1000
3/16 (水)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000	全店共通 CP買入 貸出増加支援 国債買現先	▲ 2,600 ▲ 27,800 ▲ 40,700	5,000	▲ 66,100	▲ 70,100	流動性供給▲5000
3/17 (木)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	確定申告
3/18 (金)	▲ 1,000	11,000	10,000				0	10,000	
週間合計	▲ 2,600	13,600	11,000	—	▲ 71,400	5,000	▲ 66,400	▲ 55,400	

3/14は日銀予想、3/15以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、調達サイドがしっかりしていることから、積み最終日にあたる15日までは引き続き強い地合いが予想される。16日以降は新積み期を迎えるため、参加者の立ち上がりの動向が注目される。なお、16日以降は基準比率が若干増加する（2月期間4.0%→3月期間6.0%）。レポ市場は、GC T/Nは、新積み期に入るものの、引き続き▲0.09～▲0.07%程度での推移が予想される。短国市場は、16日に1Y物、17日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。15日に実施が予想される短国買入オペのオフア額にも注目したい。CP市場は、20日を挟む発行集中日が予定されており、発行レートの動向が注目される。

主要なイベントは、国内では17～18日に金融政策決定会合、18日に2月の全国CPI、海外では15～16日にFOMC、17日に英中銀MPC結果発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。